

## 中央大学国際経営学部 企業訪問報告書

調査テーマ	グローバルサプライチェーンの戦略
調査日	2021年10月28日(木)10:30~12:00
調査先	アルプスアルパイン本社
担当教員身分・氏名	准教授 楊川
授業科目/学部企画名	訪問調査(〔企業訪問〕)
参加学生数(学年)	1年生6名、2年生8名、3年生1名
調査趣旨・目的	アルプスアルパインの本社を訪問し、グローバルサプライチェーンの本質を理解する。
調査結果	<p>アルプスアルパイン本社に訪問し、企業の概要や戦略などについて伺った。参加者の中には日本にまだ来ていない留学生がいたため、訪問は本社とZoomでのハイブリッド形式でおこなった。</p> <p>まず、人事部採用課の中舛様からアルプスアルパインがどのような会社でどのような製品を作っているのか、そしてどのような相手と取引しているのかなどの、企業概要をご説明していただいた。アルプスアルパインは中央大学卒業生が80名以上在籍しており、私たちにとってとてもゆかりがある企業であった。またアルプスアルパインのメイン事業である電子部品業界は工業の中でも重要な立ち位置であり、日系企業の影響力も大きい業界である。その中でもアルパインブランドは顧客満足度が高く、世界95%以上のカーメーカーと取引実績がある。強みとしては材料から部品・ユニットモジュール・セットメーカーまで幅広く網羅しているため多様なニーズに対応できることが挙げられる。また海外へはアジア、北米、欧州とバランスよく展開していることが特徴である。アルプスアルパインの前身であるアルプス電気とアルパインの技術をうまく融合させることで、ハードウェアにもソフトウェアにも強い企業を実現している。</p> <p>次に、生産企画室の吉田様からはご自身の経験も交えつつ、海外展開などのグローバルサプライチェーンとしてのアルプスアルパインの戦略を詳しく説明していただいた。アルプスアルパインの歴史についても詳しくお話ししてください、経営を学んでいる学生にはとても意味のあるものになった。1990年代の「小さく生んで大きく育てる」というモットーのもと、工場のコア製品を確立することで海外展開を進めていったそうだ。しかし、ただ工場を増やすだけではなく、状況に合わせて閉鎖したり合併したりした工場もあり、取捨選択を迫られた場面もある。業界全体の課題だけでなくアルプスアルパインとしての課題についてもお話しいただいた。</p> <p>また実際にアルプスアルパイン本社の中を少し見学させていただき、制作</p>

している電子部品にも触らせていただいた。触り心地や押したときの音が全く異なる様々な種類のスイッチが展示されていて、普段意識しないようなスイッチの違いが新鮮だった。お二方とも事前に私たちが送らせていただいた質問にもお話の中で丁寧に答えてくださり、とても充実した企業訪問となった。

真剣に話を聞く参加者たち



展示されているボタンを触っている参加者



ご対応者様と本社に訪問した参加者で集合写真

